

課コード	001105	作成日	平成20年5月2日
所属名	保育課	作成者	鈴木 正人

政策名(上位目的)	保育に係る総合的な施策の推進と保育所の管理運営
目の名称	
保育所費	

分野	部	課	施策・事務事業	
計画コード	款	項	目 事項	
科目コード	11	06	15	03 15
(旧科目コード)	11	06	11	03

事業名		戦略性
世代間交流事業		
事業概要		
目的	(対象、意図、求められる結果)	
対象	市立保育園(24園)の入所児童及び各市立保育園の近隣に在住の高齢者(地域の老人クラブ会員及び高齢者施設入所者等)	
意図	市が、市立保育園の保育活動の一環として、入所児童と地域の高齢者との交流事業を実施することにより、地域社会と連携したなかでの保育を展開する。 交流事業...園児が高齢者とともに行う季節の行事や伝承遊び、高齢者の豊かな知識や生活体験の園児への披露(お話)等	
求められる結果	・保育園児には、高齢者への親近感や尊敬、いたわりの心を醸成するとともに、季節の行事や伝承遊び等に対する関心を高め、豊かな心を育む。 ・高齢者には、保育園児とのふれあいを楽しみ、児童から元気をもらったり生きがいを感じていただく。	
開始年度	昭和 61 年	終了予定年度
活動内容		
実施方法	・保育園における交流活動 季節の伝統行事や地域における伝承遊び等を高齢者とともに体験する。 ・老人クラブや高齢者施設等に出向いての交流活動 季節の行事や伝承遊びのほか、地域の特性を活かした自然とのふれあい活動等を体験する。	
実施回数等	各園ごとに事業内容を決め、年間2回以上実施	
伝統行事等	お花見、七夕、納涼会、餅つき、豆まき、ひな祭り等	
伝承遊び、屋外活動等	竹馬づくり、竹細工、凧作り、わらじ作り、お手玉、手まり、芋ほり、園庭・花壇の整備等	
事業の性格分類	実施根拠(法令、条例等)	新市建設計画事業 / リーディング提案事業
義務的事業	任意的事業	
事業運営方法		
直営	一部委託	全部委託 補助等

		H17年度決算	H18年度決算	H19年度最終予算	H20年度当初予算	H21年度計画額	H22年度計画額	前期4年間計
事業費(千円)		290	270	350	336			
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	市債							
	受益者負担分(使用料等)							
	その他							
	一般財源	290	270	350	336			
人件費		800	800	800	800			
内訳	人工	0.1	0.1	0.1	0.1			
	単価	8,000	8,000	8,000	8,000			
計	年間経費	1,090	1,070	1,150	1,136			
	受益者負担率	0	0	0	0			

性質別内訳												
平成	人件費	扶助費	公債費	物件費	維持補修	補助費等	積立金	投資及び出資金	貸付金	繰出金	投資的経費	公営企業
18	800			290								
19	800			270								
20	800			350								

指標1		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
交流事業の実施回数(年間、1園あたり)	目標	回	2	2	5	5	5
	実績	回	3.9	4.2			
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	1,070	1,150	1,136		
単位当たり経費		千円/単位	274	276	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率		%		100.8%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

指標2		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%					
	実績	%					
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	1,070	1,150	1,136		
単位当たり経費		千円/単位	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
単位当たり経費変動率		%		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

定性評価	
過年度の実施内容	

地域の高齢者を保育園に招き、また地域の老人クラブや高齢者施設を訪問等するなかで、古くから伝わる季節行事や伝承遊び等を高齢者とともに体験し、心のふれあいを深め、児童の心身の健全な発達を図った。

H18年度事業実績
 実施園数 25園中、23園で実施
 実施回数 延べ89回 (園で実施 73回、高齢者施設等で実施 16回)
 参加人数 子ども 5,444人 高齢者 2,035人 合計 7,479人

H19年度事業実績
 実施園数 全25園で実施
 実施回数 延べ104回 (園で実施 74回、高齢者施設等で実施 30回)
 参加人数 子ども 5,752人 高齢者 2,201人 合計 7,953人

事前評価	必要性	(分析・理由)
	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い 祖父母との同居世帯が減少傾向にある中、高齢者との交流を通じて、多様性の理解や、いたわり、思いやりの心の醸成を図る必要がある。
事前評価	行政関与の妥当性	(分析・理由)
	A	A 高い B ↑ C ↓ D 低い 一日の多くを保育園で過ごす子どもたちには、積極的に園が関与して地域の人々と触れ合う機会を設けていくことが必要である。
事後評価	有効性	(分析・理由)
	A	A 非常に有効 B やや有効 C あまり有効でない D 有効でない 高齢者からは保育園児とのふれあいや交流により、生きがいを感じ癒される等の感想を得ている。また、子どもたちにも高齢者をいたわり敬う気持ちが生じており、高齢者、児童の双方にとり有意義な事業となっている。
事後評価	効率性	(分析・理由)
	B	A 単位当たり経費が前年比マイナス B 単位当たり経費が前年とほぼ同じ C 単位当たり経費が前年比プラス D 評価できない 通常の保育活動の一環として事業実施しており、当該事業に係る経費も必要最小限の範囲で対応する等、創意工夫をする中で事業実施している。

今後の事業展開		(分析・理由)
規模	拡大・充実 現状のまま継続 縮小 廃止	
拡大		地域の老人クラブや高齢者施設等の理解や協力が得られており、事業継続していく必要がある。

具体的な改善内容・事業の方向性等	
問題意識 ・一日の多くを保育園で過ごす子どもたちにとって、地域の高齢者との交流を深め、季節の行事や伝承遊び、地域の豊かな自然等をともに体験することは、児童の豊かな心の醸成にとって欠かせない重要な取り組みである。	
・保育指針(保育所における保育内容や運営等について定めた国告示)が改定され、平成21年度から施行されるが、保育の実施にあたっては、「子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮すること。その際、家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自然、人材、行事、施設等の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実が図られるよう配慮すること。」の項目が規定されており、一層の保育内容の充実が求められている。	
・地域との連携を図る観点から、今後は高齢者団体以外とも積極的に調整を図り、高齢者等を含めた幅広い世代との交流を展開していく。そのため新たな交流活動(児童とともに行う行事等)の内容を探っていくとともに、実施回数の拡大にも努めていく。	
想定結果 市の実施が適当だが改善を要するもの	
〔備考〕事業に対する市民・市民活動団体・事業者・議会からの指摘	